
幼なじみは芸能人

紫華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼なじみは芸能人

【Nコード】

N3370L

【作者名】

紫華

【あらすじ】

芸能人な俺の幼なじみ。

嵐のようなあいつのおかげで俺の平穩(?)な日常は消えてしまった……。

またまたはじめちゃいましたよ……。

立海仁王主役(?)のお話です。

あ

俺には1つ年下の幼なじみがおる。

昔っから俺の後ばかりついてくる奴じゃ。

今年そいつがこの立海に入学する。

離れられたのはたった1年じゃったのう。

別に嫌いなわけじゃないんじやが……。

「仁王どうしたんだよい？なんか上の空だぜい。」

こいつは丸いブタ……じゃのうて丸井ブン太じゃ。

同じ部活の奴で仲のいい奴のひとりじゃ。

「今日幼なじみが入学してくるんじや……。憂鬱じゃのう……。」

「

「仁王の幼なじみ？なんで憂鬱なんだよい？」

「それはの……。」

俺が言いかけた時じゃった。

教室のドアがバンツと開き、あいつが俺に飛びついてきたのは。

「まーくん!!」

……やっぱり来よったか。
てかなんで今日発表されたクラスを知ってるんじゃないか。こいつは俺に飛びついたのは幼なじみ。
かなりの美少女なんじゃが無自覚。
まっすぐなクセのない長い黒髪を頭の上のほうでツインテールにしている。

「に、にににに仁王！！そいつってまさか！！」

「ブンちゃん」に『が多すぎるなり。」

「んなことはどうでもいいんだよい！！そいつあの玖珂紫蘭クガシランじゃねえか？！」

「ん？あたしのこと知ってるの？」

「普通知らんわけないじゃろ……………」。

「あたしってそんなに有名？」

紫蘭は本当に不思議そうに首を傾げる。

やっぱりこいつはバカじゃ。

「お前さん、何本CMでて何本ドラマでて何曲歌つとると思つとるんじゃ。」

「えーと、いち、にい、さん、しい、ごお……………わかんない。」

「ほんまもんのバカぜよ。」

俺の幼なじみ、玖珂紫蘭は芸能人じゃ。

4歳の時に天才子役としてデビューしてからはや8年。

未だ人気衰えず。

それどころか歌手としても活躍しとる。

日本で知らん奴はおらんじやろ。

本人は容姿同様かなり無自覚じゃが。

「まーくんって結構失礼だよね。」

「ピヨ。」

「まあいいけど……………。それより、なんで置いてっちゃうの？一緒に
行こうと思つてたのに。」

そう言つと紫蘭ははらはらと涙をこぼした。

ブンちゃんはかなりオロオロしとるが……………。

「治臣がおるじゃろ。それに俺に嘔泣きは効かんぜよ。」

俺が言うつとぴたりと泣きやんだ。

ちなみに治臣は俺の弟で紫蘭と同じ年でここに入学したやつじゃ。

「つまんないのー。みんな騙されるのにまーくんはいつもわかるよね。演技力あるはずなんだけどなあ。………ところでこの人誰？まーくんの彼女？」

そう言つて紫蘭が指さしたのは………。

「俺は男だ！………！！！」

ブンちゃんじゃった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3370/>

幼なじみは芸能人

2010年10月8日11時38分発行